10/17

第2回 までいのつどい

今年度行なわれた様々な「までい」に関する取り組みを集めて広く村内外に「までいライフ」を広めようと、「までいのつどい」が村公民館で行われ、村内外から約100人が参加しました。

このつどいは、までいのつどい実行委員会、までいライフ顕彰委員会、村が主催して開催したものです。

「つどい」では、佐藤公一実行委員長（佐須）、村長のあいさつに続き、『ひとのやさしさ　み～つけた」写真コンテスト』、「までいマイグッズコンクール」、「までいライフ顕彰事業」の表彰式が行われました。

▲「ひとのやさしさ　み～つけた」写真コンテスト受賞者

『ひとのやさしさ　み～つけた」写真コンテスト』

『ひとのやさしさ　み～つけた」写真コンテスト』は、内の小学4～5年生全員が身近な「人の思いやり」「人のやさしさ」を感じるものを収めた写真コンテストで、日常風景の中の「までい」をとらえた写真102点の応募がありました。その中で渡辺和東さんがまでい賞を受賞し、他にもやさしいで賞、ユニバーサルデザイン賞など16人が表彰を受けました。（※表1）

▲までいマイグッズコンクールの表彰を受ける佐藤和代さん

「までいマイグッズコンクール」

次に行われた「までいマイグッズコンクール」では、かつて愛用した思い出のある洋服などを再利用して作られたバッグや帽子など89点の応募作品の中から、30年以上前に購入したTシャツを湯たんぽ袋に作り変えた佐藤和代さんが最優秀賞に輝いたほか、9人の方が表彰されました。（※表2）

◀会場のようす

◀講演を行う竹内さん

「までいライフ顕彰事業」

村内のまでいな暮らしを募集し、思いやりやエコの精神にあふれたものを表彰する「までいライフ顕彰事業」では、241件の応募の中から、村内外の有識者らで構成された「までいライフ顕彰委員会」が6人のまでいな暮らしぶりを選び、までいライフ認定者として認定・表彰しました。（※認定者は下段のとおり）

「までいライフ講演会」

各表彰式の終了後には「までいライフ講演会」が行われ、『江戸の暮らしに学ぶ「までい」』と題し、江戸東京博物館館長の竹内誠さんが講演しました。

竹内さんは、「当たり前のことはその国の文献には書かれない。」と日本を訪れた外国人の目から見た江戸の文化を様々な文献を例に紹介しながら、当時の日本人がいかに互いを思いやり、また、つつましく生きていたかなど、現在村が進めている「までいライフ」に通じる江戸の精神を講演しました。

※表1
「ひとのやさしさ　み～つけた」写真コンテスト入賞者（敬称略）

までい賞（1点）
渡辺　和東（飯樋小5年）

やさしいで賞（5点）
高野　絵美（飯樋小4年）
細川　竜太（飯樋小4年）
佐藤　巧（臼石小4年）
松下　雄飛（草野小5年）
佐藤　結美（草野小5年）

ユニバーサルデザイン賞（5点）
菅野　美紀（飯樋小4年）
細杉　睦輝（臼石小4年）
高倉　梨紗（臼石小5年）
武藤　彰吾（臼石小5年）
村山　鈴歌（草野小5年）

みつけたで賞（5点）
菅野　翔太（飯樋小4年）
西内　乃彩（飯樋小5年）
木幡　素行（臼石小4年）
佐藤　聖和（草野小4年）
鈴木　優（草野小5年）

※表2
「までいマイグッズコンテスト入賞者（敬称略）

最優秀賞（1点）
佐藤　和代　湯たんぽ袋

優秀賞（2点）
庄司　久美子　バッグ
大久保ハツイ　肩かけカバン

住作（7点）
佐藤　重子　湯たんぽ袋
大内　ヒロ　リュック
佐藤　公子　オーバーブラウス
中島　友子　状差し
村山　孝　四ツひも
大内みえ子　ひな人形
菅野　朝子　テーブル掛け

髙橋　僚太さん（二枚橋）

我が家では、お母さんがケーキやパンを買わないで作ってくれます。手作りのほうがおいしいからです。

また、バナナの皮やキャベツの芯など、生ごみをそのまま捨てないで、お父さんと一緒に牛の餌にしています。

家庭にも牛にもやさしいことだと思います。

半杭　悠さん（南相馬市）

私は母から「1日5人にあいさつを」「小さなことにもありがとうと言いなさい」とよく言われています。その中でも「小さなことにも感謝」は毎日のように聞かされています。

今は当たり前に学校生活がおくれること、友達、そして毎日私を学校まで送ってくれるお母さんに感謝しています。

村上　克枝さん（前田）

私の家族は子どもと一緒にお野菜、お米づくりを無農薬でしています。収穫してお料理をつくるのも時間がある時には一緒にしています。

そうすることで野菜や命の大切さ、食べ物をいただくことへの感謝の気持ちなどが生まれ、人や自然を思いやることができる人になってくれるよう見守っています。

第3回までいライフ認定者

高橋　柊さん（臼石）

捨てられてしまうものを工夫して物を作って遊ぶことをしています。例えばトレーを集めて舟を作ったり、納豆の容器も破れた紙を使って亀を作ったりして遊べるように物を工夫しています。

僕はすぐに物を欲しがりますが、それよりは捨てられるものを使って工夫したほうがよいと思います。

佐野　亮太さん（小宮）

洗濯機の電気がもったいないからお風呂の水をたらいにうつして手洗いでたまに洗濯をやっています。歯をみがく時に水を出しっぱなしにしないで歯を磨いている時は水を止めています。お風呂の水はそのまま捨てるともったいないから洗濯に使っています。

地球に優しいことを家族みんなで実践しています。

中川　昭さん（宮内）

兄は妊娠している母を労わってたくさんお手伝いをしています。

例えば、買い物の時に重い荷物を持ってあげたり、時々食事の用意をしたりしていっぱいお手伝いをして、お母さんの仕事を減らしています。

僕も兄がいないときは荷物を運んだりしてお手伝いをします。